

【著者紹介】

菅野 富夫・かんのとみお

昭和八十八年	三月	霊山町に生まれる
昭和三十二年	四月	福島県立医科大学卒業
昭和三十三年	四月	福島県白河厚生総合病院にてインターン
昭和三十四年	四月	インターン修了
昭和三十四年	三月	東京大学大学院生物系研究科第一基礎医学専門課程入学
昭和三十八年	三月	同大学院を修了し、医学博士の学位を授与
昭和三十九年	四月	日本学術振興会特別奨励研究生
昭和三十九年	五月	東京大学医学部助手
昭和三十九年	十月	同助手休職 ニュヨーク、アルバート・アインシュタイン医大留学
昭和四十二年	十月	東京大学医学部助手に復職
昭和四十四年	一月	東京大学講師
昭和四十四年	三月	北海道大学教授（獣医学部）
昭和六十二年	三月	北海道大学学生部長
昭和六十二年	三月	北海道大学獣医学部長
昭和六十二年	五月	岡崎国立共同研究機構・生理学研究所分子生理研究所系併任（客員教授）
平成二年	五月	日本生理学会評議員
昭和四十年	四月	日本獣医学評議員
昭和五十年	四月	Biomedical Research, Editor
昭和五十五年	五月	The American Physiology Society, Corresponding Member
昭和五十六年	九月	The New York Academy of Sciences, Active Member
昭和五十七年	四月	日本内分泌学会会員
昭和五十七年	七月	脳腸ホルモン学会理事
昭和六十年	四月	日本臓臓学会評議員
昭和六十年	一月	International Journal of Pancreatology, Associate Editor
昭和六十二年	一月	Biological Signals, Associate Editor
昭和六十二年	五月	岡崎国立共同研究機構・生理学研究所 運営協議員
平成二年	三月	International Symposium on Chromaffin Cell Biology, Member of International Advisory Board
平成二年	七月	International Association of Pancreatology, Council Member

した。その地に住む人々がふだんあまり気づかないことでも、数十年を経て故郷を訪れる者のほうがかえってその変化を理解できることもありましょう。

私達の研究室では、ホルモンや消化酵素を分泌する細胞の中の極めて薄いカルシウム濃度の僅かな変化を特殊な装置で画像に変換して記録し、その変化が分泌を引き起こすまでの過程を調べております。この研究では、細胞や組織の記録範囲も記録速度も大幅に変えることができます。研究のうえで、「見る」時間と空間を変えると、生理機能を「考える」幅が広がります。このような研究から、いろいろの物事や世の中のことさえも、時間軸と空間軸をかえて考え直してみようという習性がいとも頭をもたげます。私達の周りの情報量が多くなる一方で、かえって大切なものを見過ごしていることが多いのではないか、情報を整理し時間軸と空間軸を変えて再構成してみるとつとはつきりものが見えてくるのではないかといつも考えているのです。複雑な生命現象をできるかぎり単純な要素に分解し、その要素が適用できる範囲が広がれば広いほどすぐれた理論であると信じて、研究に熱中しております。

提言